

山原と団亀

比嘉 静 (1915・T4) 字大木 (00 : 41)

たびにん はなし
旅人ぬ話。
たびにん やんぼるやま うん やん
ある旅人ぬ、な一山原山んかい行ぢさくとう。山
ぼるやま ふーるいー かーみー をう
原山んじな一、便所入ぶさたぐとう、亀ぬ居しえ
わ
一分からんなや一に、亀ぬ上んかい糞おまていさ
ぐとう。

たびにの あっ
な一、うぬ旅人おな一、な一な一また歩きわるな
ちつ たび ちぢ あっ
一ちつ、旅え続きりわるやるんち歩ちさくとう。な
どうー くす あっ ひるま
一、自分ぬまて一る糞ぬな一歩ちさくとう、な一珍
くす あっ
し一むんな一糞ぬ歩ちゆんちんあるや一んち。

やんぼる たび いくたび
山原ぬ旅や 幾旅んさしが
くす あっ くんどうはじ
糞ぬ歩ちゆしや 今度初み
たびにの ひるま
んち、うぬ旅人おな一、じこ一な一珍さし、さんで
はなしー
いる話ぐわ一。

【共通語訳】

旅人の話ね。

ある旅人が、道中、山原の山にさしかかった。そこで、旅人は便意を催して、亀がいることを知らずに、亀の上に糞をした。

それから、旅を続けようと、そのまま歩いて行こうとした。すると、自分の糞が歩いたので、これは不思議なことだ、糞が歩くということもあるのかなと思つてね。

山原の旅は 何度もしたが

糞が歩くのは 今度初めて

と、その旅人はあまりにも不思議に思ったという話さ。